

在宅療養にお困りの方・訪問診療を考えている方のお手伝いをします

○在宅療養支援窓口の相談事例紹介

<妹からの相談>



Aさんの妹

高齢の姉(Aさん)は数年前に夫が亡くなってから一人で暮らしています。夫が亡くなる前から認知症の診断を受けていましたが、最近は、怒りっぽい、不安になる、落ち着かない等といったことが増えました。近くに住む弟が、薬の管理や、電車で行く少し遠い2つの病院の付き添いをしています。弟も体調のすぐれない時があり、その時は私に対応していますが、姉(Aさん)に対してどう関わっていいかわかりません。

<在宅療養支援窓口スタッフの支援内容>

Aさんの妹は、Aさんの認知症による症状にどの様に接したらいいかわからず、身近に相談出来る人がいませんでした。また、受診の付き添いや薬の管理なども大変になっていました。そのため、Aさんだけではなく家族にとっても通いやすく気軽に相談できる“かかりつけ医”を持つことを提案しました。

Aさんは家の近くに“かかりつけ医”を持ち、病気のことだけでなく介護サービスのアドバイスも受けました。かかりつけ医やケアマネジャーと相談し、介護サービスの利用にも繋がり、AさんだけではなくAさんの妹弟も安心感を得られました。

“かかりつけ医”を持ちましょう！

“かかりつけ医”とは、発熱や、身体がだるい、食欲がないなど、健康に関することを相談できる身近な診療所や病院の医師のことです。継続的な関わりを通じて、本人の身体の状態に適したアドバイスを受けることができます。また、健康診断等をきっかけに、“かかりつけ医”を持つことも健康管理を継続するために非常に重要です。

○かかりつけ医ができること○

- ◆状態により適切な医療機関を紹介
- ◆健康診断やインフルエンザ等の予防接種の実施
- ◆介護保険に関する主治医意見書の作成
- ◆通院が困難な方への訪問診療
- ◆必要に応じて本人や家族との人生会議(ACP)を実施
- ◆認知症の早期診断と支援



お住まいの近くなど、通いやすい場所で“かかりつけ医”を見つけ、日常的な健康管理に役立てましょう。

